

教師として

教育の世界で活躍する卒業生たち

目標は大きくもって最後までやりぬくこと

大岡 久芳先生(理科)
(星城高等学校第4回生)



【Profile】岡崎市立岩津小学校、岡崎市立城北中学校、広幡小学校、常盤小学校、上地小学校、岡崎市立北中学校教頭、西尾市立室場小学校校長を歴任。
平成18年より岡崎市立矢作北中学校校長就任。

「教師は親ではない。兄弟でもない。友だちでもない。ガキ大将でもない。だが、そのすべてでありたい。」(毛涯章平)。教師が骨身さえ惜しまなければいい子が育ちます。教師になるには、子どもが好きという理由だけでは駄目です。子どもとの生活で感動と出会えること、これが教師になると味わうことができます。

私自身は、公立高校を失敗して星城高等学校へ入学をした初めのうちはやる気がありませんでしたが、担任の先生はじめ周りの先生方の熱心な指導を受け、何が何でも愛教大へ進学をして教師になる決心をしました。今、教師になれたのも星城のおかげだと感謝しています。

『情熱と努力』 発達途上にある生徒のために情熱を注ぐ

竹内 正孝先生(社会)
(星城高等学校第8回生)



【Profile】星城高等学校で2年間非常勤講師を務め、刈谷工業高等学校、岡崎西高等学校、平成18年より知立東高等学校にて勤務。

まだ星城高等学校に定時制があった時に2年間非常勤講師として勤めました。成績関係が不況の中、多くの生徒が学校を去り、ある学年は最後にはクラスに1名となり、結局は定時制は廃止となりました。私は、故郷を離れて仕事、勉強、そして故郷へ仕送りをする生徒の姿から本当にいろいろなことを教えられました。

公立高校は3校経験しましたが、それぞれの学校の特色は違えども、生徒とのさまざまなふれあいのなかから、生徒の生き生きとした表情に接し、そしてこの発達途上にある生徒をなんとか助けたい、そのためには自分も成長を続けたいといけなと思っています。これからの教師には、子どもに対して愛情をもって献身的にとことん動く人間であることが必要ではないでしょうか。

子どもを好きになる、そして、『罪を憎んで人を憎まず』

蛭牟田 弘樹先生(理科)
(星城高等学校第26回生)



【Profile】豊明市立豊明小学校、平成13年より日進市立日進中学校にて勤務。

「理科の面白さを教えたい」と思い、教師になりました。最初は、小学校2年生を担当しましたが、なんと理科がなく、1年生と2年生には生活科という科目でした。理科に関わることなく、他の全教科を教えるのにひたすら勉強したのを懐かしく思います。翌年、6年生を担当し、それからは高学年から中学校。自分の中でも最初の2年生は貴重な体験だったと思います。年齢に応じた言葉で「伝える」ことの難しさも学びました。

私は、小学校と中学校の両方を見ているのですが、基本的な指導は同じだと思います。できないことができたときの表情や、みんなで頑張ってる喜びを分かち合う、この時は本当にやりがいを感じます。私は子どもたちが、学校で何かひとつでも印象に残ってその日が終わってくれば良いなと常に思っています。



学園トピックス

星城大学 この人、この笑顔

富谷 俊巨
(星城大学第1期生)
三和実業株式会社
(星城懇話会会員企業)



入社して1年、頑張れば頑張るほど上司に褒めていただけますのでやりがいを感じています。

(中田 英幸社長)

(富谷 俊巨)

中田英幸社長談:人当たりが良く、礼儀正しく、責任感があり非常に良くやってくれています。

星城高等学校 今年も出場しました。全国の大会



佐賀県で開催された全国高校総体に、レスリング部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、空手道部、剣道部、水泳部の計49名、全国高等学校ゴルフ選手権大会には3名、あわせて52名の選手が出場しました。

星城中学校 目標!全員踏破一富士登山一

7月5日から7日まで、第2学年恒例の富士登山が行われました。学校長を先頭に全員が八合目に到着し、20名が登頂しました。



星の城 幼稚園 星の城セミナー(星城懇話会協力) 「子どものころに寄り添うために」



講師 星城大学
赤岡 美津子教授

6月27日子どもの言動やその背後にある心の理解とそれに基づく親の対応について、ともに考える時間をもちました。そして、その具体化のためのコミュニケーション実習で相互理解の手法を学びました。

専門学校星城大学 リハビリテーション学院 完成学年を迎えた II部の臨床実習にあたって



専門学校 星城大学リハビリテーション学院
大田 洋一専任教員
(星城高等学校第19回生)

今年度、II部(夜間部)の完成年度を迎えました。II部は4年生で、机上で習った知識を実際の臨床で行う事を目的とする、「臨床実習」を4回に分けて18週間行います。

医療現場はチームワークで行っていますので、幅広い知識とコミュニケーション能力を併せもち、人の痛みがわかる理学療法士として活躍できるように、「人間性・主体性の涵養・技能の向上」をモットーに指導しています。

『子どもたちとふれあい、子どもたちから吸収しながら更に勉強すること』

渡部 浩史先生(体育)
(星城高等学校第16回生)



【Profile】豊田市立前林中学校、刈谷市立刈谷東中学校にて勤務。小学校教員免許取得後、刈谷市立双葉小学校にて勤務。

中学校では大人としてなりたっていく成長、小学校では子どもとしての成長と両方の学校の経験が私にとってもやりがいを与えています。こちらの教え方や話の仕方子どもたちがすぐ変わってきますので、責任は重い。しかし共感してくれたり、もう一度考え直してくれる事は嬉しい。私が教えて、できなかった事ができるようにになっていく、更に上手になっていく姿を見ると、自分の事のように嬉しく「先生っていいな」と思う瞬間です。

私は、常に子どもたちとふれあい、厳しさとやさしさの両方を持ち合わせて、それを使い分けることが必要だと思います。教師は、まず3年間はいろいろな先輩の真似をして、良いところを吸収して自分のものにしていく。そして4年目から自分というのが出せればよいと思います。

子どもひとり一人の「安全地帯」になること

吉川 孝子先生
(星城高等学校第8回生)



【Profile】
豊明市職員として、豊明市立保育園勤務。主任保育士を歴任し、平成4年より保育園園長、平成18年より児童館館長就任。現在は、8つの児童館・1つの児童クラブを担当。

保育士となって初めて、乳幼児を担当した時の私を頼ってくれる腫を今も忘れません。これからは、国が認定子ども園の推奨をしています。幼保一元化で両方の資格があると大変良いかと思ます。特に、カウンセ論・家族論などは益々必要になることと思ます。

後輩へは、人間の一生は早いものです。悔いの残らない毎日を送ってほしいと思ます。高校時代に将来の目標をもつことは難しいですが、こんな職業につきたいという漠然とした目標でいいのもって下さい。その目標に向かっていろいろな方法を考えていく事が進路の想定になります。あとは、親というのは、子どもから親にしてもらうものです。「子どもをたくさんもって下さい」。

